

菅平高原付近の蛾類 (補遺III)*

宮田 彬

大分医科大学生物学教室

The Moth-fauna of Sugadaira Plateau and its Suburbs, Addenda III

AKIRA MIYATA

Department of Biology, Medical College of Oita

Synopsis

1. A total of 30 species of moths belonging to 6 families was added the moth-fauna of Sugadaira plateau listed by T. KOBAYASHI and MIYATA (1968) and Y. KOBAYASHI (1972).
2. *Valeriodes virimacula* GRAESER and *Chytonix albonotata* (STAUDINGER) were eliminated from the fauna because of misidentification.

筑波大学の菅平研究センター (旧東京教育大学菅平生物実験所) の施設を利用して、安藤裕教授の指導の下で、宮田彬(1962~1967)、小林俊樹(1964~1965)および小林幸正(1970~1971)により、菅平高原の蛾類に関する研究が行われた。その結果は小林(俊)・宮田(1968)および小林(幸)(1972)がそれぞれまとめている。小林(幸)(1971)以後は、菅平で蛾の研究を行う者はほとんどない。

著者は1960年代に採集した菅平の蛾の標本を再同定し、最近の20数年間の蛾類分類学の進歩に伴ない若干の追加と訂正を行う必要があると考えた。著者は、たまたま小林幸正(1970)が菅平の実験所屋上に設置した誘蛾燈(20Wブラック・ライト)で採集した数万点に及ぶ蛾類標本を凍結保存していることを知り、それを譲り受けた。標本はフリーザーにビニール袋に納めて保存されており、大部分は極めて新鮮な状態を保っており、展翅標本の作成も可能であった。膨大な標本の全容を発表するには、まだ相当の時間が必要である。今回は2~3の菅平未記録種を中心に報告したい。

本文に入るに先立ち、菅平高原における研究の便宜を与えられ御指導下さった安藤裕教授、貴重な標本の研究を許していただいた埼玉医科大学の小林幸正博士、採集に協力して頂き早春の採集品などを提供して下さいました愛知教育大学の金森正臣教授に対して深甚な謝意を表す。

菅平未記録の蛾類

菅平高原の蛾類は小林(俊)・宮田(1968)および小林(幸)(1972)によると合計約800種類が記録されている。しかし小蛾を中心になお若干の追加が必要である。以下の種類は	上記両論文に報告されていない種類である。なお小林博士から譲り受けた凍結標本の詳細は、後日発表することにして、以下の本文ではその内容の一部をのべる。この標本は1970
--	--

* 筑波大学菅平高原実験センター研究業績 101号

(1986年12月26日受理)

年と一部 1971 年の採集で、5 月は 19 日、28 日、29 日、30 日の 4 回、6 月は 23 日、24 日、25 日の 3 回、7 月は 17 日、23 日、25 日、27 日、28 日、30 日の 7 回、8 月は 3 日、8 日、9 日、16 日、17 日、18 日、19 日、20 日、22 日の 9 回、合計 26 回である。それぞれ日没後から午前 3 時まで 1 時間ごとに飛来した蛾を別々のビニール袋に納めてある。これらの標本を凍結標本と呼ぶ。また、個体数は 26 回の採集の計である。小林は全個体数を約 5 万と推定しているが、著者も同意できる。

メイガ科 PYRALIDAE

メイガ科は草原性の種類が多く、低地や南部では種類数、個体数ともに極めて多い。しかし菅平高原では、2~3 の種類を別にすれば、メイガ科の蛾は個体数が少なく、種類数も貧弱である。クロマダラメイガ *Pyla japonica* INOUE は 6 月下旬から 8 月にかけて、一晚 1000 頭以上が飛来する。恐らく菅平で最も個体数の多い蛾である。誘蛾灯に入る蛾の数の半分近くを占めている。クロマダラメイガに次ぐのはマエアカスカシノメイガ *Palpita nigropunctalis* (BREMER) で、凍結標本中に 564 個体が含まれていた。次いでワタノメイガ *Notarca derogata* (FABRICIUS) (112 個体)、ナカムラサキフトメイガ *Craneophora ficki* CHRISTOPH (70 個体) などが比較的個体数の多い種類である。その他の種類はせいぜい 10 個体が採集される程度である。

1. テンスジツトガ *Chrysoteuchia distinctella* (LEECH) 1967 年 8 月 1 日 1 ex. 宮田彬採集。

2. コブノメイガ *Cnaphalocrocis medinalis* (GUENÉE) 1970 年 7 月 28 日 1 ex. 小林幸正採集。

本種は稲の害虫として知られている。日本では越冬出来ず、毎年大陸方面より飛来し、北方へ分散するらしい。菅平では初めて採集された。

3. モンキクロノメイガ *Herpetogramma luctuosalis* (GUENÉE)

1970~1971 年にかけて、7~8 月に 10 頭採集された。ブドウやヤブガラシに寄生し、平地では最も普通な種類であるが、菅平では今まで記録がなかった。

4. キイロノメイガ *Preinephela lancealis honshuensis* MUNROE et MUTUURA 1970 年 7 月 30 日 1 ex. 小林幸正採集。

5. トビイロシマメイガ *Hypsopygia regina* (BUTLER) 1970 年 7 月 29 日 1 ex. 小林幸正採集。

6. トビスジマダラメイガ *Patagoniodes nipponellus* (RAGONOT) 1962 年 8 月 24 日 1 ex. 宮田彬採集。

7. マツノシンダラメイガ *Dioryctria sylvestrella* (RATZBURG) 1962 年 7 月 21 日 1 ex., 1962 年 8 月 24 日 1 ex. 宮田彬採集。

8. ウスアカモンクロマダラメイガ *Cero-prepes ophthalmicella* (CHRISTOPH) 1962 年 8 月 24 日 1 ex. 宮田彬採集。

トリバガ科 PTEROPHORIDAE

9. オダマキトリバ *Platyptilia jezoensis* MATSUMURA 1962 年 7 月 21 日 1 ex., 1965 年 7 月 26 日 1 ex. 宮田彬採集。

本種は、小林・宮田 (1968) の記録では疑問符がついている。しかし所蔵標本中に菅平産があったので追加した。

カギバガ科 DREPANIDAE

10. ウスイロカギバ *Callidrepana palleola* (MOTSCHULKY) 1963 年 8 月 21 日 1 ex. 宮田彬採集。

本種は、以前ギンモンカギバ *C. patrana* (MOORE) に含まれていたが、現在は幼虫などの違いにより別種とされている。著者はウスイロカギバの標本しか持っていないので、菅平に真のギンモンカギバが産するかどうかは明らかでない。

シャクガ科 GEOMETRIDAE

11. セスジナミシャク *Evecliptopera decurrence illitata* (WILEMAN) 1970年7月29日2 exs. 小林幸正採集。
12. ウスグロノコバエダシャク *Odontopera bidentata harutai* (INOUE) 1970年6月25日1 ex. 小林幸正採集。
13. エグリツマエダシャク *Odontopera arida arida* (BUTLER) 1970年5月28日～30日3 exs. 小林幸正採集。
本種は小林・宮田(1968)に疑問符がついているが、5月下旬に採集されることが分かった。本種に近縁のキイロエグリツマエダシャク *O. aurata* (PROUT)は、菅平では夏に普通である。
- ヒトリガ科 ARCTIDAE
14. キシタホソバ *Eilema griseola aegrota* (BUTLER) 1962年8月24日1 ex., 1967年8月1日1 ex. 宮田彬採集。
15. ミヤマキベリホソバ *Eilema okanoi* INOUE 1962年8月24日1 ex. 宮田彬採集。
16. キマエクロホソバ *Agylla collitoides collitoides* (BUTLER)
本種は6月下旬に極めて多く、7月には殆んど見られなくなる。最も遅い採集例は7月27日である。合計44個体採集された。本種に近縁のキベリネズミホソバ *A. gigantea gigantea* (OBERTHÜR)は、7～8月に多い。6月下旬から出現しはじめ(数個体採集された)、7月下旬からは著しく個体数を増す。ムジホソバ *Eilema deplana pavescens* (BUTLER)(正確な集計は終わっていないが明らかにキベリネズミホソバより多い)と並び菅平における最も優勢なヒトリガである。合計1496個体採集された。
17. アカスジシロコケガ *Bizone hamata hamata* WALKER 1970年7月30日1 ex. 小林幸正採集。
18. フトスジモンヒトリ *Spilosoma obiquizonata* (MIYAKE) 1970年6月23

日2 exs. 小林幸正採集。

ヤガ科 NOCTUIDAE

菅平高原のヤガ科中でモンヤガ亜科が種類数も個体数も圧倒的に優勢である。最も個体数が多いのはタンポヤガ *Xestia ditrapezium orientalis* (STRAND)で、7月中旬より出現し、8月下旬まで、主として前半夜に集中的に飛来する。1998個体が採集された。これと近縁種のシロモンヤガ *X. c-nigrum* (LINNAEUS)は5月中旬から現われ、6月下旬まで多い。7月前半は幼虫期のため採集されず、7月下旬から再び姿を見せる。初めは個体数が少ないが次第に増加し、8月下旬以降はタンポヤガと同様個体数が多い。やはり前半夜型の飛来である。690個体採集された。クロクモヤガ *Heromonassa cecilia* BUTERも普通種で、5～6月に集中して出現する。夏の採集は8月下旬の1個体のみである。前半夜型である。合計309個体が採集されたがそのうち175個体は5月28日の採集である。これら大部分は腹部が異常に膨らんだ産卵前の雌であった。

19. ヒメカクモンヤガ *Chersotis deplana* (FRYER) 1962年8月24日2 exs., 1962年8月21日1 ex. 宮田彬採集。

本種は群馬県北軽井沢産の雌により日本の蛾相に加えられた(杉, 1969)。その後杉・宮田(1981)により菅平産の雄により詳しく報告された草原性のヤガである。その他、九州大学所蔵の碓氷峠産も知られている。

20. オオカバスジャガ *Sineugraphe longipennis* (BOURSIN)

小林の採集品(7～8月)の中に、ウスイロカバスジャガ *S. bipartita* (GRAESER)に混って本種が少数発見された。同属の3種の中では、個体数はウスイロカバスジャガが最も多く、833個体得られ、前半夜型であった。カバスジャガ *S. exuta* (BUTLER)は360個体採集され、やはり前半夜型である。オオカバスジャガは僅かに18個体得られたのみ。この種はウスイロカバスジャガと外観上区別がつけに

くい場合がある。しかしこの3種は写真に示すように雌雄の交尾器の形態が明瞭に違っている。大きさはカバスジヤガが最も小さく、ついでウスイロカバスジヤガ、オオカバスジヤガの順に大きい。

21. ホソバキリガ *Orthosia angustipennis* (MATSUMURA) 1969年4月14日1ex. 金森正臣採集。

22. キバネシロテンウスグロヨトウ *Athetis pallidipennis* SUGI

最近、シロテンウスグロヨトウ *A. albispinata* (OBERTHÜR) から分離された種で、菅平では7~8月に多産する。小林・宮田 (1968) がシロテンウスグロヨトウと記録したのはキバネシロテンウスグロヨトウである。真のシロテンウスグロヨトウは今までのところ発見されていない。鱗紛の落ちた個体などは紛らわしいので同定にあたっては交尾器を検査する必要がある。今後この種が未同定の標本中から発見される可能性もある。菅平にはシロモンオビヨトウ *A. lineosa* (MOORE) もかなり多い。低地に多いヒメサビスジヨトウ *A. stellata* (MOORE) は、菅平ではあまり多くない。以上の3種は汚損した標本では同定し難い場合もあるが、雌雄交尾器の形態により容易に区別出来る (写真参照)。

23. ハガタアオヨトウ *Trachea tokinesis* (BUTLER) 1962年7月21日1ex. 宮田彬採集。

小林・宮田 (1968) にアオハガタヨトウ

Valeriodes viridimacula GRAESER とあるのは、恐らく和名の似たハガタアオヨトウが間違っただけに混入したのではないかと思われる。アオハガタヨトウは筆者の手元になので、菅平の目録から除くことにしたい。

24. アオバセダカヨトウ *Mormo muscivirens* BUTELER 1970年7月27日1ex. 小林幸正採集。

25. ホソバネグロヨトウ *Chytonix subalbonotata* SUGI 1966年5月31日1ex. 金森正臣採集。

本種は小林・宮田 (1968) には、ネグロヨトウ *C. albonotata* (STAUDINGER) として記録されているが、現存している標本はホソバネグロヨトウであったので訂正しておく。

26. フタテンヒメヨトウ *Hadjina biguttula* (MOTSCHULSKY) 1970年7月30日1ex. 小林幸正採集。

27. ハグルマトモエ *Spirama helicina* (HÜBNER) 1970年7月29日1ex. 小林幸正採集。

28. アカエグリバ *Oraesia excavata* (BUTELER) 1970年8月17日1ex. 小林幸正採集。

29. タイワンキシタアツバ *Hyphenia trigonalis* (GUENÉE) 1970年7月30日1ex. 小林幸正採集。

30. ミスジアツバ *Paracolax trilinealis* (BREMER) 1970年6月24日~25日2exs. 小林幸正採集。

ま と め

1960年代の著者の採集品の再検討および小林幸正が1970年に採集し、凍結保存中の膨大な標本の検査を行い、菅平高原から未だ記録されたことのない蛾類、および疑問種であったが確認出来た種類計6科30種類を追加した。また誤同定などにより、菅平に産することになっているネグロヨトウとアオハガタヨトウを菅平の目録から削減した。シロテンウスグロヨトウと同定されている標本のうち、現在、筆者の手元に残っているものは全てキバネシロテンウスグロヨトウであった。しかしシロテンウスグロヨトウが菅平に産するかどうかは、凍結標本を全て見ないと結論が出せない。後日、同定を終わり次第、菅平の蛾類に関する詳しいノートをまとめ、発表したいと考えている。

引用文献

- 小林俊樹・宮田彬（1968）菅平高原周辺の蛾類，東京教育大学菅平高原生物実験所研究報告，第2号，40-81，図1.
- 小林幸正（1972）菅平高原周辺の蛾類（補遺I），東京教育大学菅平高原生物実験所研究報告，第5号，29-33，図1.
- 杉繁郎（1969）ヒメカクモヤガについて，Mukuge News, 10: 35.
- 杉繁郎・宮田彬（1981）上信山地におけるヒメカクモンヤガの再発見，蛾類通信，No.112,192-193.

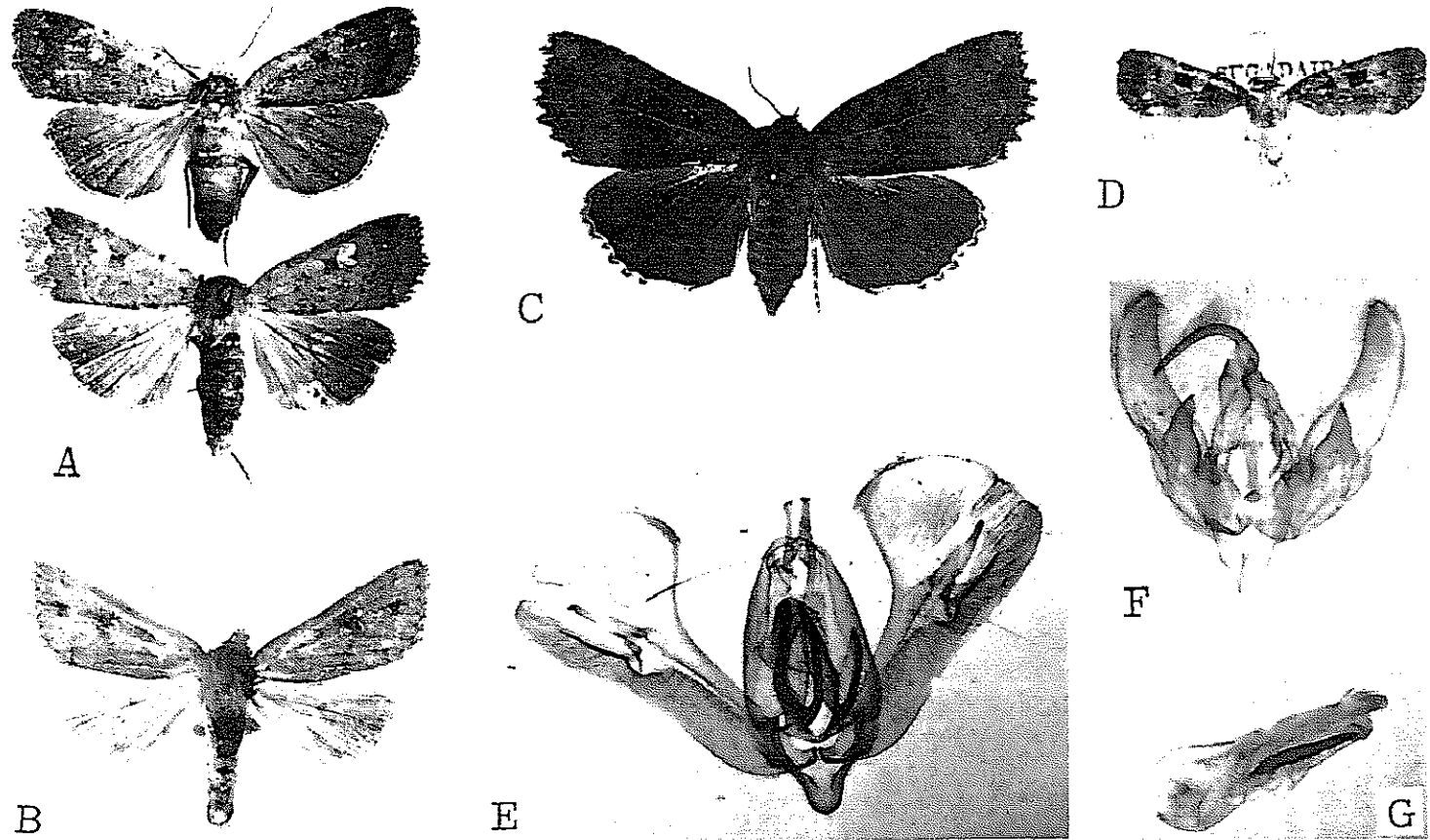


図1. A. オオカバスジヤガ *Sineugraphe longipennis* (BOURSIN) B. ホソバキリガ *Orthosia angustipennis* (MATSURA)
 C. アオバセダカヨトウ *Mormo muscivirens* BUTLER D, F, G. ヒメカクモンヤガ *Chersotis deplana* (FREYER) F,
 G. 雄交尾器. E. キバネシロテンウスグロヨトウ *Athetis pallidipennis* SUGI 雄交尾器.

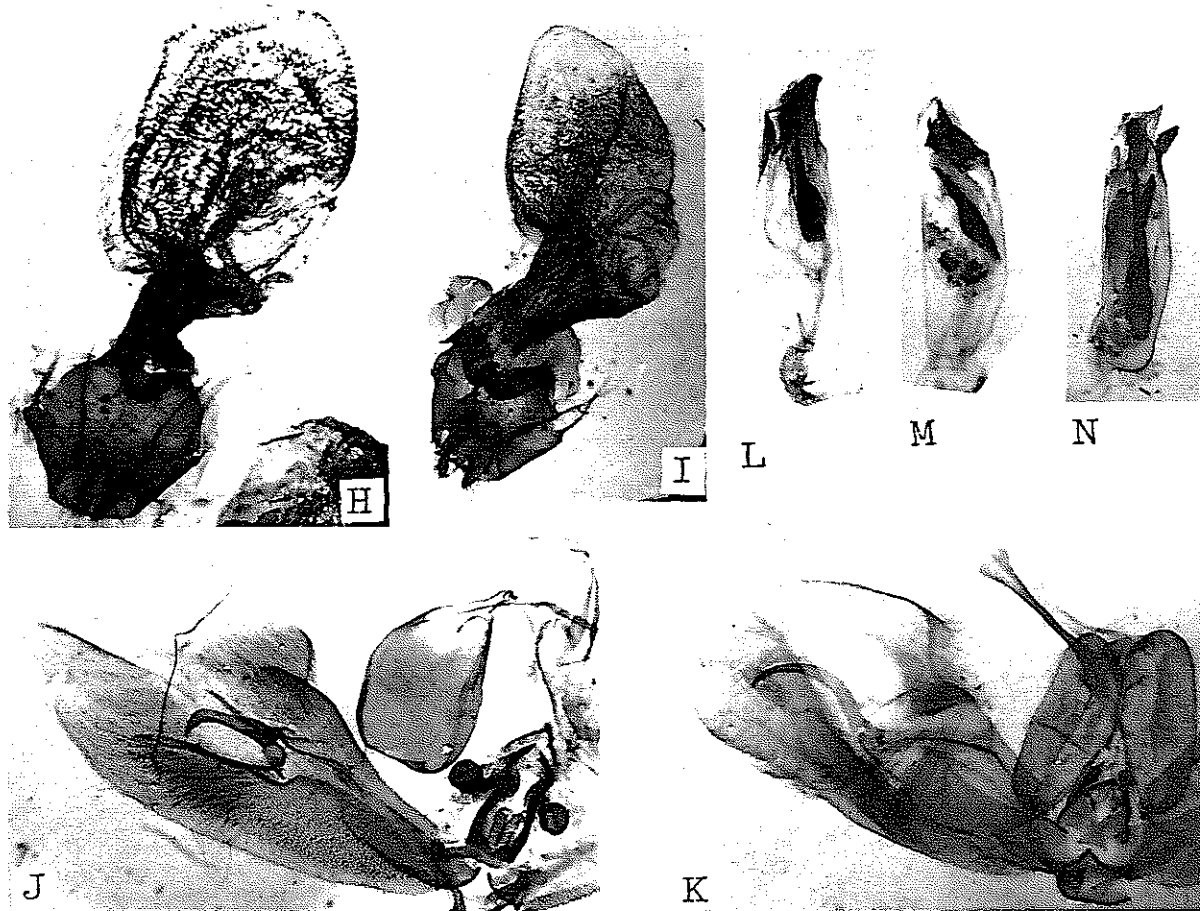


図2. F,I. キバネシロテンウスグロヨトウ *Athetis pallidipennis* (SUGI) M. 雄交尾器. I. 雌交尾器. H, J, L. シロモン
 オビヨトウ *Athetis lineosa* (MOORE) H. 雌交尾器. J, L. 雄交尾器. K, N. ヒメサビスジヨトウ *Athetis stellata*
 (MOORE) 雄交尾器

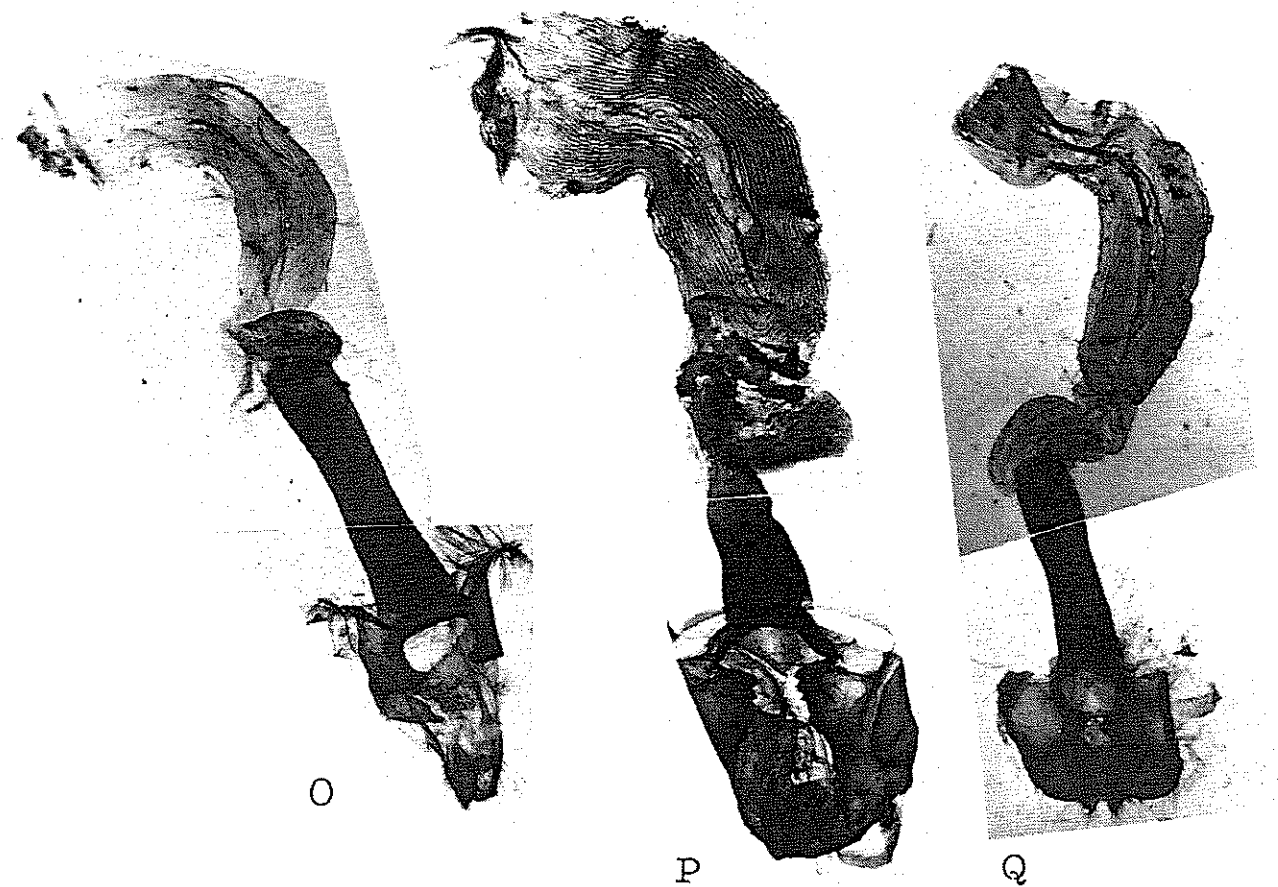


図 3. O. カバスジャガ *Sineugraphe exusta* (BUTLER) 雌交尾器. P. オオカバスジャガ *Sineugraphe longipennis* (BOURSIN) 雌交尾器. Q. ウスイロカバスジャガ *Sineugraphe bipartita* (GRAESER) 雌交尾器.

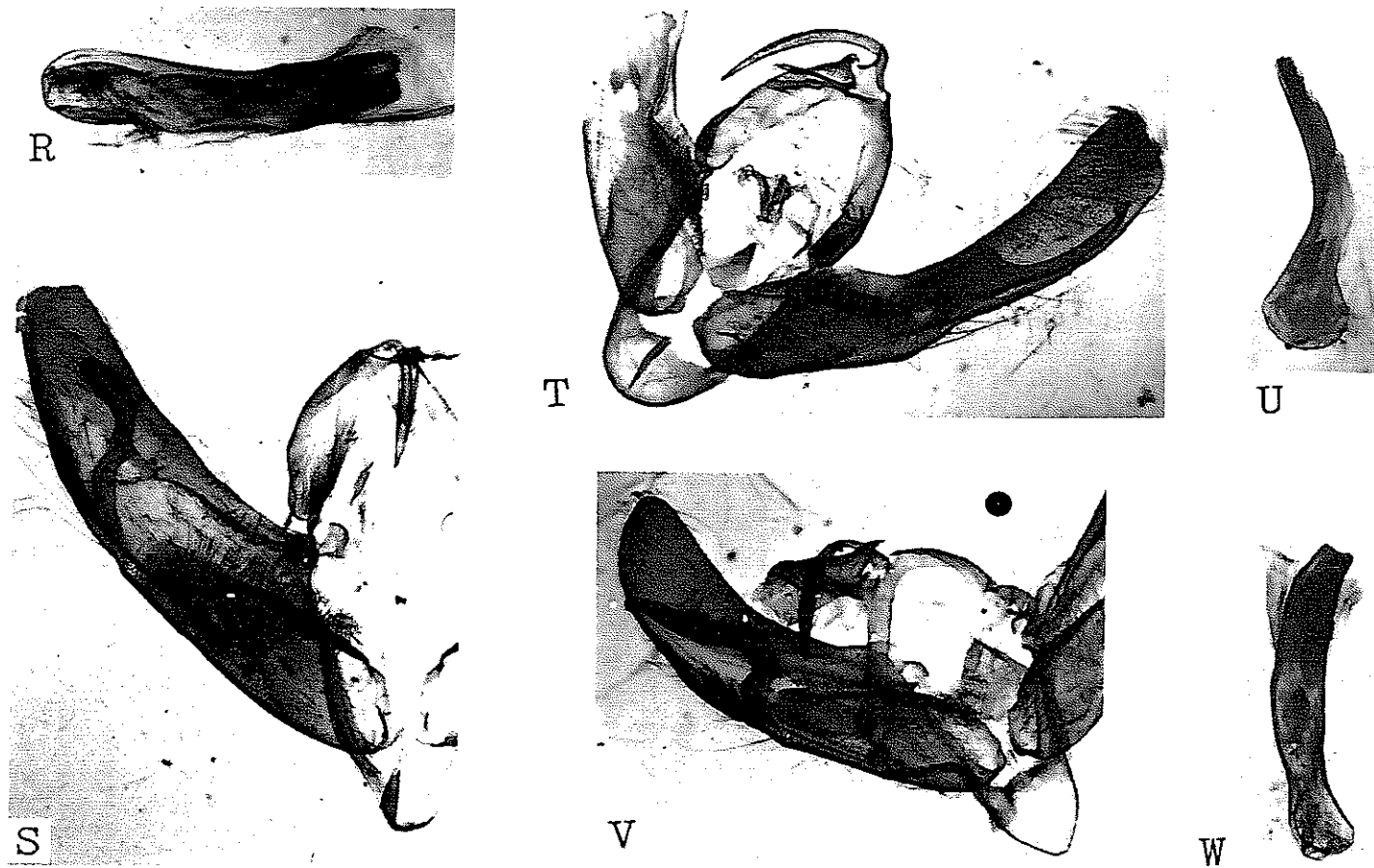


図4. T, U. カバスジャガ *Sineugraphe exusta* (BUTLER) 雄交尾器. R, S. オオカバスジャガ *Sineugraphe longipennis* (BOURSIN) 雄交尾器. V, W. ウスイロカバスジャガ *Sineugraphe bipartita* (GRAESER) 雄交尾器.